

会 議 議 事 録

会 議 名	第二回 学校関係者評価委員会	専門学校 東京工科自動車大学校
開催日時	平成 26年 2月 5日 (水) 18時 ~ 20時	
会 場	専門学校東京工科自動車大学校 123教室	
参 加 者	委員	7人 (参加者) 浅古 純一 (OB: 委員長)・太田 誠二 (保護者) 田中 洋子 (近隣)・佐々木 洋一 (協会企業等) 沼田 勇 (企業: 代理 高村)・大石 安孝 (企業) 齋藤 昭男 (企業)
	事務局	3人 佐藤 康夫・澁谷 健・金澤 晃男
会 議 録	<p>●開会挨拶 (佐藤)</p> <p>●委員紹介(澁谷)</p> <p>●議長選出 浅古委員長が議長に選任された。</p> <p>●第一号議案 前回議事録の確認(佐藤) 前回会議の議事録内容について改めて確認が行われ、委員会として承認がなされた。</p> <p>●第二号議案 平成24年度自己評価に基づく学校関係者評価について (佐藤) 「平成25年度第1回学校関係者評価」の結果について自己評価の基準項目ごとに改めて確認が行われ、委員会としての承認がなされた。</p> <p>●第三号議案 平成25年度事業計画と取り組みを基にした平成26年度に向けた意見のまとめ (佐藤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度の取り組み概要 平成24年度自己評価を踏まえ、平成25年度の事業計画において学校がどのような取組を行っているかについて「就職」「退学」「科目履修」を中心に取り組み概要と途中経過を説明。 ・平成26年度に向けての課題に関する意見交換 <p>佐々木) H24報告書は6月30日に提出。報告が提示された第一回会議が11月。今後の評価委員会のサイクルはどのようになっていくか？</p> <p>佐藤) 今年度は新課程告示後に委員会設置した関係で遅くなっている。報告書の承認は早期に実施すべき。今年度自己点検評価への反映も必要となる。次年度委員会のスケジュールに関しては、再度確認して報告する。</p> <p>佐藤) H26年度事業計画に反映させる意見を頂戴したい。 H26年度は、東京工科自動車大学校3校を東京工科グループとしてより強化し、</p>	

企業の皆様とより一層の連携を図る。

佐々木) 定員数を変更する計画があるか? 募集状況は?

佐藤) 総定員数は 20 年来変えていない。少子化の影響により学生数が減少したが現在は微増傾向。

佐々木) スーパーディラーでは 2 級・1 級が必要なのか?

齋藤) 最近の傾向として、社会に出るのを遅くするために 4 年制を選ぶ者もいる。1 級整備士だけが必要ではない。2 級でコツコツやる若者も必要。

佐藤) 1 級は業界で象徴的なエンジニア。今後の整備士のリーダー格であり、整備士を目指す若者の目標となる。

佐々木) 企業によって 4 年課程の評価が異なる。大卒との違いは?

佐藤) 4 年制は高度専門士、文科省は大卒と同じであるとしている。大学院への入学資格がある。浸透するのに時間がかかる。大卒の技術職は現場に立つことができない。

(資格をもっていない) 大卒と同等の位置付けは徐々に浸透している。

齋藤) 2 級課程では、1 年が終わる前に就職活動が開始する。この間は学生に対して重要な部分。就職のミスマッチ防止のためにも技術以外に職業観の醸成が必要。

浅古) 就職活動の開始時期は学生時代、2 年の夏休み以降だった。

佐藤) 現在、1 年入学時研修から就職を意識したカリキュラムを実施しているが、まだまだ見直す必要がある。職業観を全体的な取り組みとしてやっていきたい。

佐々木) 工場の利益が生まれる為に必要な知識が必要。メカニクは技術だけではなく。経営に関する知識も必要。

大石) メカニク出身の学生に対して入社後に経営の教育は大変難しい。

佐々木) 技術訓練だけでなく、職業訓練をして欲しい。

齋藤) 1 級課程で経営力を身に付けては? 2 級課程は難しいのではないか?

佐藤) 1 年生の終わりには職業観を持っている学生。卒業直前に経営の基礎知識、例えば仕事の流れや利益・コスト意識の 2 段階が必要かと思われる。

浅古) 人間力と技術のバランスが大切。「人間として正しいかどうか?」この観点で見るとると答えは出てくる。エネルギーの源となる夢をイメージできるかにかかっている。こんなカリキュラムがあれば人間力が増えるのではないか?

太田) 職業実践専門課程では行政とのギャップがる。ドイツは職業訓練と学術がはっきり分かれている。国が技術に目をむけて育てる政策が必要。もっとスポットライトが当たるような施策が必要。

高村) 首都圏の学校では、2 級から 1 級の編入が増えている。2 級課程の卒業生も貴重。現在店長の 9 割は整備士から。整備という職をもって就職することに誇りを持ってほしい。

田中) 防災に関して。地域防災計画の検討に加わって欲しい。

佐藤) 業務として学内に委員を決める等検討する。

上記意見を盛り込み、平成 26 年度事業計画を作成する事で承認された。

以上

会議風景



平成 25 年度 第 2 回 学校関係者評価 結果

(学校関係者評価委員会実施日:平成 26 年 2 月 5 日)



学校法人 小山学園
専門学校東京工科自動車大学校

1. 結果

本校は、平成 26 年 2 月 5 日に「平成 25 年度第 2 回学校関係者評価委員会」を開催いたしました。

第一回委員会と合わせて結果を以下にまとめます。

(1) 概要

本委員会では、前回(平成 25 年 11 月 12 日)開催された第一回学校関係者評価委員会での意見について平成 25 年度本校の事業計画における取組みと現状の評価、今後の取組みの考え方について説明を行った。これにより、平成 24 年度自己評価の各項目の取組みについて問題はないことの確認が行われた。さらに、次年度以降の取組みについて意見交換を行い、中長期的な課題として 26 年の学校関係者評価の継続課題とした。

(2) 結果

大項目		
基準 1 教育理念・目的・ 育成人材像	平成 24 年度自己評価	3.8/4.0
	第 1 回学校関係者評価	<p>小小学園の教育理念や目的、育成人材像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践においてもおおむね満足できる取組みがなされている。また、各学科の教育目標、育成人材像を正しく方向付けるための一連のプロセスにおいても適切に構築されている。</p> <p>一方、環境の変化に対応するための将来構想に関しては、今後も社会等の動きを見極めて柔軟に対応する必要がある。</p>
	上記指摘を踏まえた 学校の対応	上記で課題となっている将来構想に関しては、科を超え全校を含めた学園としての取組みとして、校全体で長期的に取り組んでゆく。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。
基準 2 学校運営	平成 24 年度自己評価	3.4/4.0
	第 1 回学校関係者評価	<p>学校運営方針や事業計画については明確に定められており、設置法人や学校そのものの運営に関しても寄付行為や規定類により適切に運営されている。一方、専門学校教育を取り巻く環境は日々変化しており、柔軟性かつ迅速に対応できる体制を整える必要がある。</p>
	上記指摘を踏まえた 学校の対応	上記で課題となっている柔軟性かつ迅速に対応できる体制整備に関しては、科を超え全校を含めた学園としての取組みとして、校全体で長期的に取り組んでゆく。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。
基準 3 教育活動	平成 24 年度自己評価	3.8/4.0
	第 1 回学校関係者評価	<p>教育目標の設定や成績評価の仕組み、教員組織等はおおむね満足できる水準に達している。特に教育方法や評価に関しては組織的に取り組んでおり教育の質保証に関しても、コマシラバスや授業シー等の独自の取組みもあり評価できる。</p> <p>今後の課題としては、自動車産業の技術革新や業態の変化に対し、産業界の人材ニーズがさらに高い教育の質を望むばかりではなく、内容も変化することも考えられるため、教育課程の編成に関しさらに研究を続けるとともに、優れた資質を有する教員を確保すること努力が必要である。</p>
	上記指摘を踏まえた 学校の対応	上記で課題となっている自動車産業の技術革新や業態の変化に対し、産業界の人材ニーズが変化していることに対応した教育課程の編成見直しについては、教育課程編成委員会でも企業の委員から具体的な指摘を受けており、特に自動車技術の進歩に対応した新技術の教育内容の見直しおよび職業人としての必要な社会人基礎力の醸成について、学校内部で検討を進める体制づくり等組織的な取組みを行う。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。

基準4 学修成果	平成24年度自己評価	3.3/4.0
	第1回学校関係者評価	就職については、自動車業界の幅広い分野から求人があり、学習成果が業界のニーズに結び付いていることが窺える。また、早期内定や高い就職率など満足できる水準に達していると考えられる。資格・免許取得率の向上に関しては、現状に留まることなく、さらに高い目標を目指しさらなる施策を講じることを期待する。また、卒業生の動向調査については十分に実施されているとはいえないため、今後は組織として体制を整えていく必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている卒業生の動向調査については、後援会企業を中心とした情報収集や同窓会活動の活性化により卒業生とのパイプ強化を進めているが、成果が出るまでは時間がかかる問題も多い。長期的な取り組みとして継続してゆく。
	第2回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。
基準5 学生支援	平成24年度自己評価	3.3/4.0
	第1回学校関係者評価	就職支援や保護者との連携についてはおおむね満足できる水準に達している。一方で、毎年僅かながら退学者が発生しており、人間性を含む対応力強化、解決策の共有などについて、なお一層低減に努力する必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている退学者の低減に向けた個々の学生に対する指導については、教員側の指導の進め方の情報共有を目的とした「学生指導データベース」のさらなる有効活用を行い、タイムリーな学生対応を進めてゆく。 また、自動車業界の情報を提供するため、企業と連携し講演会、企業見学、インターンシップの充実を進めてゆく。
	第2回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。これらの取り組みには、教員自体のスキルアップが必要であり、企業側もその機会提供に対して協力する。
基準6 教育環境	平成24年度自己評価	3.7/4.0
	第1回学校関係者評価	施設・設備・教育用具等は、おおむね満足できる水準に達している。また、学外実習・インターンシップ・海外研修等への取り組みに関しても、おおむね満足できる水準に達している。一方、防災面に関しては、施設面での問題は無いが、緊急時の避難を想定した訓練および連絡体制などにおいては、さらに備えを充実することを検討すべきである。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている緊急時の避難を想定した訓練および協力体制の構築については地域との連携をもって進めてゆく。また学生および教員の連絡体制などについてはITを用いた情報提供システムを有効に活用したい。
	第2回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。
基準7 学生の募集と受入れ	平成24年度自己評価	3.5/4.0
	第1回学校関係者評価	学生募集活動に関しては、コンプライアンス上は適切な運営が行なわれている。 一方で、入学定員は充足できていないことから、上記に掲げた優れた教育活動やその成果などの情報発信提供方法を改善していく必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている教育内容の情報発信については、学園の広報本部と連携して教育活動及びその成果を伝えるとともに発表会などの場に参加を広く呼びかける等の積極的な施策を進めてゆく。
	第2回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。
基準8 財務	平成24年度自己評価	3.6/4.0
	第1回学校関係者評価	財務に関しては、財務基盤、予算収支計画、監査の各項目に関して問題ない。なお、財務情報の公開に関しては、第2回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題としていた財務情報の公開については、平成25年12月5日にWebサイト上で公開した。
	第2回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。

基準 9 法令等の遵守	平成 24 年度自己評価	3.1/4.0
	第 1 回学校関係者評価	法令等の遵守に関しては、法令遵守、個人情報保護、学校評価の各項目に関して問題ない。教育情報の公開に関しては、第 2 回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題としていた「自己評価報告書」の公開については、平成 25 年 12 月 5 日に Web サイト上で公開した。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。
基準 10 社会貢献・地域貢献	平成 24 年度自己評価	3.3/4.0
	第 1 回学校関係者評価	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献については、地元の町内会の活動、および地域の子供たちを対象とした行事へのスタッフなど、高齢化する地元社会において若い学生の参加が非常に感謝されている。また、地元中学生や修学旅行生に対する体験授業等の実施など積極的に実施している。これらの積極的な取り組みについて、一定の評価ができる。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記のように一定の評価を受けているが、次年度以降は学校関係者評価委員の地域委員からの要望である「高齢化する地域住民の防災体制構築」に対し学校としての参画をしてゆきたいと考える。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価 上記取組みで問題はない。

以上